

『冬を楽しもう』の実践

札幌市立旭小学校 大室 道夫

◆単元のポイント

○北国の自然を生かして

北海道の冬は、「寒さ・雪」で象徴されます。この「寒さ・雪」は、「寒さが身にしみる」「雪かきが大変だ！道路が渋滞する！」とマイナス要素で捉えられることがあります。しかし、これまで人々は、厳しい自然環境の中で生きることによって、知恵とたくましさを身に付けてきました。

また、学校でも、雪が降りはじめるとグラウンドが使えなくなり、「寒さ・雪」はマイナスイメージで捉えられます。「冬は寒いからいやだ」「雪は冷たいからいやだ」と言って、室内に閉じこもりがちになる子も少なくありません。

この単元は、北国の冬の特性である「寒さや雪」に負けず、積極的に戸外に出て、それを利用して大いに楽しむことをねらって構成します。

○地域の行事を生かして

札幌の冬の代表的な行事は、『札幌雪まつり』です。これは、冬を楽しもうという願いから生まれた地域行事の一つです。市民に支えられ手作りの行事として出発した『札幌雪まつり』も今や国際的なイベントとなりました。この単元では、地域の行事『札幌雪まつり』に積極的にかかわることを考えました。雪まつりを見学する活動やそれをきっかけとして「雪像づくり」をする活動を通して、子供に「寒さ・雪」を利用して楽しく遊ぶことを通して、冬の自然のすばらしさや人々の生活の楽しみ方を味わったり、寒さや雪に負けず積極的に生活していく態度を身に付けたりしてほしいと思います。

◆単元の目標

○友だちと仲良く雪まつりを見学したり、自分たちで雪像を作る活動をしようとする。
(関心・意欲・態度)

○雪まつりを見学して楽しかったことを絵や文でまとめたり、自分たちの発想を生かして雪像を製作したりすることができる。
(思考・表現)

○雪まつりの見学や雪像の製作する活動を通して、冬の人々の生活や雪の特性などに気付く。
(気付き)

◆単元の構想（15時間扱い）

冬をさがそう

（2時間）

- ・冬さがし探検をする
- ・探検したこと発表する

みんなであそぼう

（1時間）

- ・グラウンドに出てみんなで遊ぶ
(体全体を使って)

雪まつりに行こう①

（2時間）

（計画を立てよう）

- ・雪まつりに行く計画を立てる
(約束、持ち物、活動計画等)

雪まつりに行こう②

（3時間）

（見学に出かけよう）

- ・雪まつりを見学する
- ・見学に来ている人々にインタビューする
(サインをもらう等の活動も考えられる)

○○雪まつりをしよう（7時間）

- ・雪像を作る計画を立てる
(グループごとに話し合う)
- ・みんなで協力して雪像を作る
- ・雪像コンクールをする

＜活動の留意点＞

- ・雪が降り始めた頃、時期をねらって行う。
- ・子供たちの五感を大切にする。
- ・3学期が始まってまもなく、誰も入っていないグラウンドで自由に遊ばせる。
- ・身支度をしっかりさせる。
- ・教師から提示するもの、子供に考えさせるものをしっかりと押さえる。
- ・子供が自分ごととして考えるよう仕向ける。
- ・自分で切符を買って地下鉄に乗車させる。
- ・会場では、2年生がリーダーとなって、グループ毎に見学させる。
- ・2年生では、国語『せかいのあいさつ』と関連を図り、外国から見学にいらした人々とかかわることも考慮する。
- ・『雪まつり』の見学をきっかけに、自分たちの雪まつりをする活動を考えさせる。
- ・自己評価や他者評価をする場を設定する。

◆実践するにあたって

1・2年生合同、各学年単独など、学習形態は、単元のねらいや見学に行く会場の特徴によって、柔軟に計画していくようにします。雪まつりを見学する活動では、人とのかかわりに重点を置くと良いでしょう。

1・2年生合同学習をする場合は、それぞれの学年の発達段階を考慮して活動の構成を考えていくことが大切です。